

エコロジー空間論 News

1

2011年4月14日(木) 14:40~16:10
京都精華大学春秋館101号室

第1回 村松伸+鞍田崇+林憲吾(総合地球環境学研究所) 「エコロジー空間論とは？」

1. 受講者への質問と受講者の回答
2. コーディネーターの自己紹介と回答
3. 授業の内容とスケジュールの確認

1. 受講者への質問と受講者の回答

- 1) エコロジーと聞いて何を想起しますか？
- 2) エコロジー空間論で何を学ぶと考えますか？

10分で考え、絵でも、歌でも、踊りでも、文章でも、各グループ5分で表現する。



受講生は2回生と4回生、50名程度

●チーム オーバー21

はじめに、エコロジーと聞いて皆が思うキーワードを挙げ、それを絵に表した。

バウビオロジー、エネルギー、原発、環境、ぼぼぼぼーん

村松：2つ目の質問については？エコロジー空間論に対する考え。

チーム学生：1と2を合わせて考え、キーワードを出した。

林：バウビオロジーとは？

チーム学生：建築と生物をつなぐ学問。以前講義で教えられた。内容の理解については自信がない。

学生：(絵の中の) そのウサギ何ですか？

チーム学生：AC ジャパンの CM。歌う(たーのしーい、なーかまーが、ぼぼぼぼーん♪)。



チーム オーバー21

●チーム アルプス

1、2の質問に対して、キーワードを挙げた。

- 1) 環境、サイクル、地球、3R、ハイジの世界観
- 2) 自然との関係、有機的な空間

キーワードからイメージして絵を描く。ハイジっぽい。食物連鎖や循環のある世界。

林：ブランコがない。

チーム学生：忘れました。

村松：こういう(絵のような)ところで建築家はどうしたらいいのですか？

チーム学生：3Rは建築で実行できる。素材や仮設住宅など。そういうことを環境と一緒に学んでいく。

●チーム タートルズ

1、2の質問に対して、キーワードを挙げた。

1) リサイクル、循環、緑、温暖化、モリゾー・キッコロ

2) 環境について、まちの設備、空間、生体、環境にやさしい建築

鞍田：なぜタートルズ？

チーム学生：緑と、チームにいる亀山くんから連想。

村松：環境にやさしい建築とは？

チーム学生：木しか使わない建築、全部ガラス張りで証明を使わない建築。

村松：暑いのでは？

チーム学生：窓を大きく開けるなど。

林：そういう建築は、みなさん好きですか？造りたいと思いますか？

チーム学生：エコロジーに対してだけ考えているものなので、造りたいものは別です。

林：自分のなかのエコロジーパーセントがどれくらいあるか、各チームに言ってほしい。こういうことが、どれくらい自分の日常の行動や考えを占めているか。

チーム学生：30パーセント。

ハイジチーム学生：半分くらい。

オーバー21チーム学生：100パーセント。

●チーム ちかちゃんと愉快的仲間たち

1) まずキーワードを挙げ、ちかちゃんの絵で表現。

自然と我々、人工をつなぐ、リサイクル、自然にやさしい、
未来のために、自然と仲良く

2) 自分（ちかちゃん）自身の経験から、シックハウスとどう付き
合っていくかを考える。

風や光、水を利用した空間、ランドスケープ。

林：エコ度は？

チーム学生：30パーセント。

鞍田：リサイクルなどのキーワードが出ましたが、70パーセントは無駄にしていると思いますか？

チーム学生：最近ゴミ袋にお金を払わなくてはいけなくなったが、ゴミは減らない。お菓子など、もともと過剰包装。

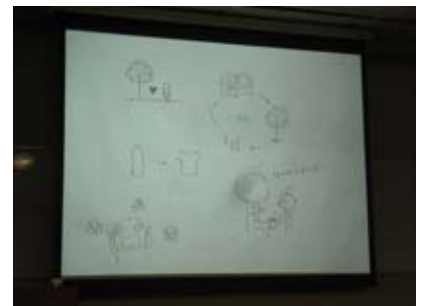
村松：（絵の中で）木と握手していますが、津波とは握手できますか？木と握手すると、原子力さんが怒ると思いますが、どうしたらいいですか？

ちかちゃん：私たち素人は、大きなことには貢献できないという難しい気持ちがある。津波本人の怒りを静めたい。

村松：ボランティアに行くとか？

ちかちゃん：規模で言うと小さなことしかできないことに悔しい思いをしている人はたくさんいる。募金をするなど、大きなことができる人を支援することはできる。

新井：地球には、自然と人間がシェアして住んでいる。共生。共に生きる。全てが悪者ではない。そこでエコロジーを考えるとすることは、相対的な価値観を考えること。津波に関して、剛には剛でなく、どうやって減らすか、流すかを考える。



チーム ちかちゃんと愉快的仲間たち

●チーム ハマガミ

1、2の質問に対して、キーワードを挙げた。

1) 環境、サステイナブル、自然にやさしく、節制、循環

2) 京都とその環境について、建材が人体に与える影響について、自然にとけこむ空間

鞍田：とけこみかたは、素材やリサイクル以外に方法がある？

チーム学生：それらも含める。他の方法については、まだわからない。

林：エコ度は？

チーム学生：30パーセント。

村松：エアコンを使いますか？

チーム学生：使う。今後ライフスタイルを変えられるか努力してみたい。

●チーム いつもの3人

まず「環境」について考える 一生き物と環境、地球にやさしい、ポジティブなイメージ。

1、2の質問については以下を考えた。

1) 3R、風力発電、水力発電

2) 共生。お互いが共生していくための、建築を考える。

村松：スギ花粉とはどうやって共生したらいい？

チーム学生：花粉は、なくなって欲しい。共生するとしても、遠くに隔離したい。

林：(絵の中で)「環境的に？」の「？」は何か。

チーム学生：「地球にやさしい」ということは、ざっくりしている。

もう少し具体的に、「環境にやさしい」「生き物にやさしい」ということを考えたい。

鞍田：(絵の中で) エコロジーとエコノミーが共生できないように見えますが？

チーム学生：必ずしも共生できなくはない。まず、語幹が似ていることから連想。

たくさんのものお互いの利益や幸福を得るため、ということ考えると、全体のやんわりしたものは似ているのかなと思う。

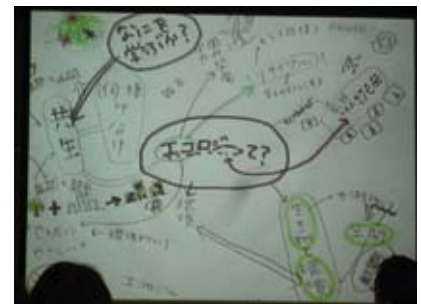
鞍田：エコロジーとエコノミーは同じ語源。「家」から来ている。

村松：エコ度は？

チーム学生：25パーセント。

鞍田：残りは？

チーム学生：やろうとしたらできるけど、例えばゴミを毎日きちんと分別しているかというところできない。分かりにくいごみの分別など。



チーム いつもの3人

●チーム 建築女子

1、2の質問に対して、キーワードを挙げた。

1) 3R、自然、いろはす、エコカー、分別、AC

2) 資源のサイクル、物資の循環(廃墟のコンクリートの再利用法)リフォーム

村松：コンクリートの再利用には、別の大きなエネルギーが必要。3Rが引き起こすエネルギー消費、副作用があることは、考えましたか？

チーム学生：考えていない。必要ないエネルギーを使わないことをまず考えていきたい。

村松：エコ度は？

チーム学生：1～2割。

林：どんなスペースが好き？どんなところでぼーっとしたい？

チーム学生：日の当たるところ。

村松：精華大のエコ度は？

チーム学生：半分いくかいかないか。学校は自分で気づかないゴミの分別をしている。

●チーム 真打

1、2の質問に対して、以下のことを考えた。

1) 自然との関わり、共存

2) 空間への視点は、自然を主体にして考える。

村松：自然を主体に、というのは？

チーム学生：譲り合うということがよく言われるが、自然は自分から譲れない。人間が取っていくだけ。

人間が自然の立場になって行動しなければいけない。

村松：自然が中心で、人間は付随するだけ？

チーム学生：以前は共存していたかもしれないが、今は人間と自然が別物と考える。だから、人間が主体ではなく、自然が主体という考えが必要。

林：かっこいいですね。建築家としてやっていくのですか？

チーム学生：そういう設計をしたい。住み分けをしない。一緒に住む。家の中に木が生えているとか。

2. コーディネーターの自己紹介と回答

● 林

自分のエコ度は5パーセントくらい。皆のほうが高い。

自分が大学に入った頃、建築の設計に3R、エコロジーという感覚はなかった。しかし、この空間いいなという気持ちはあった。

現在は、この空間いいなという気持ちが、エコロジーの感覚とつながっているかもしれないと考える。

エコロジー：①つながりとバランス、②しなやかさ、③うさんくささ、
④社会のかたち

①野田秀樹のワークショップ風景：地球にやさしいとかもこれ、誰かと誰かのつながり

②曲芸のようなバランスと、しなやかな安定：津波への対応

③学生の発表にあった「環境的に？」の「？」：京町屋の評価、環境負荷の低さのみが目的化？

④町屋の敷地：自分ひとりではない、建てられ方

建築からエコロジーへ。単体ごとに設計されるが、寄り集まって地域をつくる。つながりを考える。

学生：今具体的に、自分の身近なことでエコをやっているなという瞬間は何ですか？

林：インドネシアに行ったときに、家の前のベランダに座ってインタビューする。その状態は、エコ的。

村松：そのエコ観に関する充実度、エコ度は？

林：それをこのエコロジー空間論で議論したい。日向で気持ちいいという感覚はわかる。3Rを押し出して、いい建築をつくらうとは今いえない。

学生：初めてバリ島にいて、柱だけが並んで壁がない家が多かった。じめじめして暑い、風が吹いて、エアコンがなくても過ごしやすい。銀閣寺周辺の町屋に住んでいる伯父さんがいるが、目の前にマンションができてから風がこなくなったと聞いた。地域の一つが変わると、マイクロクライマットが変わる。自分としては、全体の風の流れがあるように、都市が変わって欲しい。その点についてどう思いますか？



林さん

林：そう思う。そして、仕組みがわからないと次の回答へ進めない。今は世界中で現象を調べている段階で、絶対的な回答はない。今回の講義でも話を聞けるはず。

村松：私たちの理想：3E (ecology, economy, equity) は必ずしも一致しない。そういうものの共存を考えている。

● 鞍田

哲学から、共生を考える。環境思想。

地球研でも、この講義でも、対話をしたい。この講義に答えはないが、考える場をつくる。

エコロジーの度合いは、暮らす上での心の豊かさではないか。

エコロジー空間とは：バックグラウンド（背景）。皆から生活する空間に対する考えが出たのがいい。

背景をどう記述できるか？ 背景⇄前景

背景は前景に対して、可視化・意識化・言語化ができない。普段していない。

その考えていない部分に、エコロジー空間がある。

前景：可視化・意識化・言語化される諸対象／経験の内容：“美しさ”

背景：美しさを美しさとして認識し得る基盤／経験の場：“愛おしさ（仮）”

（あるべき）エコロジー空間とは、空間への「愛おしさ（仮）」に根ざす。馴染み。

学生：エコ度は？

鞍田：7割。皆はハードルを高く設定していると思う。普段から関係を結んでいる。

学生：エコをしているなという瞬間は？

鞍田：妻と喧嘩をしているとき。



鞍田さん

● 村松

エコロジーとは：

人間を取り巻くすべて。自然環境だけでなく、建物もインフラも、社会も。

私は世界のなにか？私もそのなかに含まれる？

エコロジー空間論とは？ →どう関与するか？

このエコロジーに対して、ひとりの人間として、

専門家（建築史、都市史）としてどのように対処すべきかの哲学、手法。

世界中で逆立ちをする。地球を支えるという目的ではじめたプロジェクト。

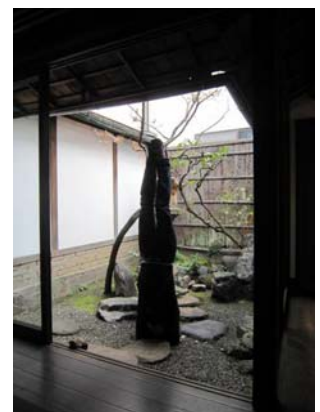
よく考えると、鞍田さんのいう愛おしい空間で逆立ちをする。ぼーっとしたい場所があるように、逆立ちしたい場所がある。

逆立ちしかできない自分に対する歯がゆさ。

専門家として、どう関わるか。大震災に対して。

学生：逆立ちはいつから始めたのですか？

村松：4、5年前から。



サカダチニスト 村松さん

3. 授業の内容とスケジュールの確認

講義（5回：六角、神松、米澤、堀田、村上）：専門家が先の二つの問いに答える。

講演会（3回：鳥越けい子、塚本由晴、内藤廣）

フィールドワーク（6月23日ガイダンス、25日、26日 ※6月24日、27日は予備調査）

プレゼンテーション（6月30日）

次回：2011年4月21日（木）14：40～16：10

京都精華大学春秋館101号室

第2回 六角美瑠「景を空間デザインに取り込む」

编者感想

エコロジーとは何か？学生のみなさんがグループを組んですぐ、次々と発せられる「生態系」のキーワード（携帯で検索するとWikipediaで真っ先に出来ますが）。「生態系って…」という議論が、発表では、3Rやゴミの分別といった日常生活で実践できること、建築で実践したいことなど、具体的な（身近な、あるいは勉強してきた）キーワードに落とし込まれていました。学生のみなさん、「エコ的」に何かに関与したい意識が高い？その「エコ的」がこの講義を通してどう変化していくのが楽しみです。講義の帰り、ゴミを捨てる時に気を使いました…。

文責：田口純子（東京大学生産技術研究所村松研究室）